

- 新・母子診療科のご紹介
- 新しいMR装置と骨塩定量装置
- 「患者さんの権利と義務」について
- 患者満足度調査の結果について
- 病院再開発の進捗状況について

新・母子診療科のご紹介



母子診療科 教授 村上 節



母子診療科は2008年12月から新任教授：村上 節^{たかし}教授を迎えました。

女性にとって、妊娠・出産は人生の一大イベントです。妊娠も出産も、多くの方は自然に経験されることですが、その一方で、何らかの疾患を有する方はもちろんのこと、健康な方でも、突然不妊症に悩み、出産の予期せぬリスクに見舞われる場合が起こり得ます。

われわれは、すべての女性の皆さまに、少しでも安心と安全を提供できるよう、これからも日々努力を続けてまいります。

▶ 治療方針・特色

母子診療科は、「効率的かつ安全な分娩を通じて地域住民に貢献する」ことを基本方針として、日々、妊娠・分娩管理を行っております。

特に、ハイリスク妊娠や母体合併症妊娠の占める割合が高いため、帝王切開分娩が多い傾向にあります。また、分娩数は毎年増加しており、平成20年1月～12月では312分娩（そのうち多児は28分娩）となりました。

▶ 治療方法の紹介

当科では、種々の合併症を有する妊婦の妊娠・分娩管理を行うとともに、平成14年5月より、高度周産期医療チームを発足し、ICU管理を要するような重症母体疾患に対し、集中治療部・他科専門領域の医師と連携し、治療に従事しております。

また、「効率的かつ安全な分娩を通じて地域住民に貢献する」ことを目的として、平成18年1月より、滋賀医科大学医学部附属病院産科オープンシステム（セミオープンシステム）を開設し、より安全な母児管理を推進しております。さらに、平成19年2月7日より、胎児超音波外来を新規開設し、胎児異常のスクリーニング、異常の早期診断・治療を行うべく診療を開始しています。

▶ メッセージ

近年、少子少産化が社会的問題として取り上げられ、同時に高齢出産など妊婦自身が潜在的に有するリスクも増加してきております。しかしその一方で、出産に対する安全神話が社会に広く普及し、妊婦さんのニーズが多様化するといった現象が生じていることも事実であります。これらの両立を目指して、妊娠・分娩管理を行っていきたいと考えています。ご支援・ご協力よろしくお願いたします。



母子診療科のスタッフ

新しいMR装置と骨塩定量装置

放射線部

新しいMR（磁気共鳴）装置を導入するために、昨年6月～12月の期間、MR検査棟の大規模な改修工事、装置設置を行いました。工事期間中にご迷惑おかけしましたことをお詫び申し上げます。ご協力ありがとうございました。

本院では、既存装置を含めて診療専用装置3台、手術支援装置1台の合計4台を保有しております。今回、新規導入及び既存装置の更新により、2台のMR装置が最新装置になりました。最新装置の1台は3テスラ*という今までの2倍の強さの磁場を有する装置です。

強い磁場の装置を用いることで、患者さんにとって、診療上有用な画像が得られる場合があります。また以前の装置では不可能であった領域の検査も可能となりました。

しかし、全ての病気、患者さんに適応させることは難しく、専門医、各診療科との連携を密とした診療体制のもと、今まで以上に装置の特性を生かした高品質な検査を施行していきます。また、大学病院の使命である臨床研究においてもこれらの装置を利用し医学の進歩に貢献していきます。

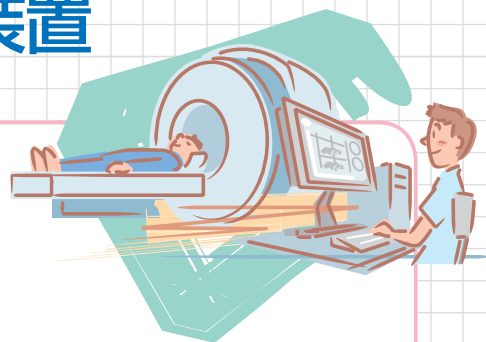
なお、現在、MR検査の予約待ちが非常に長いのですが、春からは3台のMR装置を稼働させ、予約期間を少しでも短縮できるよう体制を準備しています。

骨塩定量装置



放射線部ではもう一つ、昨年末に、骨の密度を測定する骨塩定量装置が更新されました。以前の装置と同様にX線を用いた測定精度の高いDEXA（2重エネルギーX線吸収測定法）という方法で測定します。以前より短時間で、かつ高精度な検査が可能となりました。

放射線部では、これら新規装置の導入とともにさらなる安心と信頼性の高い診療支援を目指していきます。



3テスラMR装置



新規導入のMR装置

1.5テスラMR装置



更新したMR装置

*テスラ：磁場の強さを表す単位

「患者さんの権利と義務」について

医療サービス課

本院では、医療は患者さんと病院スタッフとのお互いの信頼関係をもとに協力して作り上げていくものであると考えております。

この実現のため、このたび、患者さんの基本的な権利を明確にするとともに、患者さんに守っていただきたい義務を定めました。

ご理解のほどよろしくお願いいたします。



【患者さんの権利】

1. 公平に良質な医療を受けることができます。
2. 診療内容の説明を受けることができます。
3. プライバシーや個人情報の機密は守られます。
4. 自ら治療方法を選択することができます。
5. セカンドオピニオンのための情報提供を担当医に求めることができます。
6. ご自身の診療録（カルテ）の開示を請求することができます。

【患者さんの義務】

1. ご自身の病状に関する情報をできるだけ正確に提供して下さい。
2. 他の患者さんの療養や職員の業務に支障を来たさないようにして下さい。
3. 治療方針に従って、治療に専念するよう努めて下さい。
4. 大学病院の役割としての臨床実習ならびに臨床研究に対し、可能な限り協力して下さい。
5. 遅滞なく診療費を支払って下さい。

※当院では、暴力行為、暴言、脅迫、不当な要求などの行為に対して、警察へ通報し、厳正な対処をしております。

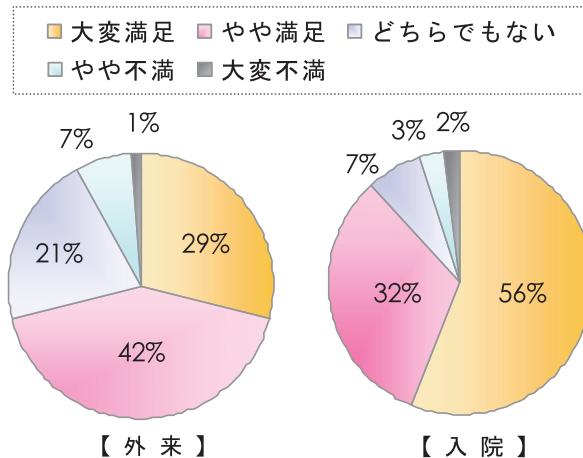
患者満足度調査の結果について

患者サービス向上委員会

平成20年7月～8月に、入院・外来患者さんを対象に、患者満足度調査を実施しました。

前年度からの課題、新たな問題点などのご指摘やスタッフに対する感謝のお言葉など、さまざまな角度から本院に対する多数のご意見をいただき、厚くお礼申し上げます。

今回の調査結果をもとに、さらに皆さんから信頼・安心・満足していただける病院を目指し、医療の提供、サービスの向上に努めてまいります。ご協力ありがとうございました。



全体として本院に満足いただいているという結果でした。

病院再開発の進捗状況について

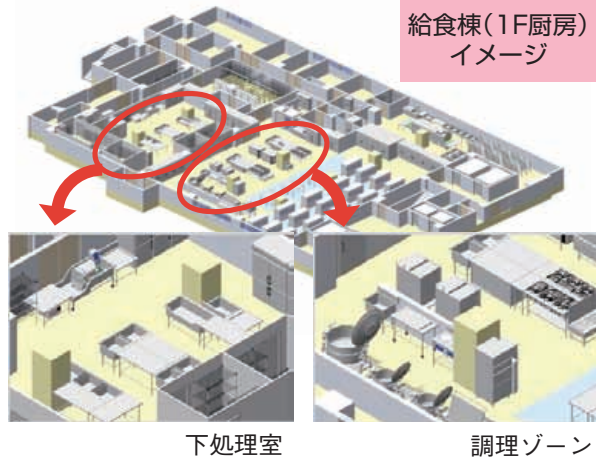
病院再開発推進室 室長補佐 國友 陵一

給食棟（1F厨房）・A病棟の改修が進行中です

去る9月28日、給食棟（1F厨房）改修のため厨房を2Fへ仮移転しました。また、A病棟改修のため、10月13日には母子・女性診療科、小児科、分娩部、GCU（新生児回復室）をA病棟からB病棟へ仮移転し、現在は仮住まいでの診療を行っています。

給食棟（1F厨房）について

給食棟は、厚生労働省の「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づき、食材の受け入れ・下処理段階における衛生管理の徹底、加熱調理後の温度管理などに配慮し改修を行っており、3月末にはリニューアルされる予定です。



給食棟（1F厨房）イメージ

A病棟について

A病棟は、NICUを6→9床、GCUを3→6床に増床するほか、最新の設備を整備し、安全管理、感染対策、セキュリティー面で十分に検討された施設に生まれ変わります。さらに、分娩室、陣痛室などの患者アメニティーも飛躍的に向上するよう計画しており、5月半ばには、新しい快適な病棟へと移転が可能となります。

A病棟導入予定の最新設備

- ・新生児モニタリングシステム
- ・シーリングシステム
- ・胎児・分娩集中監視システム
- ・LDRルーム*
- ・生殖医療ユニット
- ・入退出管理システム
- ・空調システム、床材等



1



2

NICUイメージ



ご協力をお願いします

A病棟改修後は、引き続きB病棟の改修工事（平成21年5月～11月）が実施されるため、患者さんをはじめ、県内外における関連医療機関等の方々には大変ご迷惑をおかけすることになりますが、新しい周産期体制再生に向け、スタッフ一丸となって取り組んでおりますので、特段のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

また、病院再開発事業に関するご意見・ご提案等は、病院再開発推進室までお申し出ください。ご意見箱もご利用ください。（TEL：077-548-2954 直通 E-Mail：hqsaikai@belle.shiga-med.ac.jp）

*LDRとは陣痛（Labor）、分娩（Delivery）、回復（Recovery）の略語で、分娩監視装置をはじめとして、最新の医療機器が整備されている部屋です。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

●理念を実現するための 基本方針

- 患者さん本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します

滋賀医大病院ニュース第22号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。